



た か く ま

【創立144周年】 伊佐市立牛尾小学校 児童数22名
学校だより 令和8年度 7月号



わくわくする楽しい夏休みに

今年の1学期もあとわずかになり、子供たちにとっては待ちに待った夏休みを迎えます。子供たちは、夏休みをどのように過ごすでしょうか。

私の実家は田舎にあり、子供の頃は自然の中で過ごしました。夏休みになると、毎日のラジオ体操の後、裏山にあるクヌギの木に集まっているクワガタやカブトムシをよく捕りに出かけました。クワガタが捕れないと、どうやったらクワガタが集まって来るかを近所の友達と相談し、その日のうちに砂糖水をクヌギの木に塗ったら次の日を楽しみに待ちます。翌日、カナブンや他の虫がいる中にクワガタやカブトムシを見つけたときは、喜びのあまり叫んだものでした。家に帰ると、当時はクーラーなどありませんでしたので、扇風機で暑さをしのぎながら捕まえたクワガタやカブトムシと餌を虫かごに入れ、うれしそうに眺めていたことを思い出します。

近くには川があり、竿と手作りの餌（小麦粉に焼酎を混ぜて練ったもの・・・親に教えてもらいました）や家の敷地内にあった生ゴミ捨て場から掘り出したミミズを持っていき、魚釣りに出かけていきました。釣れる魚の大きさを想像し、川の深さを見極めてどの餌を使ったらいいか、川の流れを見ながらどの辺りに仕掛けを投入したら釣れそうか考え、何度も仕掛けを入れてウキが沈むのをわくわくしながら待つことでした。

自然を相手に、どうしたらうまく捕まえたり釣ったりすることができるか試行錯誤し、うまくいかないときはさらに次の一手を考えていくことが楽しみの一つでもありました。また、実際に体験していく中で、自然への興味・関心をもち、次どうしようかと頭の中にいろいろな考えをぐるぐると巡らせながら主体的に考えること、失敗することやできないことは当たり前でありその中でもうまくいったときの達成感を味わえること、学校で学んだことを実際に体験の場で生かせること、社会性や豊かな人間性の形成、そして何より自然のありがたさや大切さを理解することを、自然を相手にしているだけに自然と身に付けていったのではないかと思います。

とても長い夏休みの中で、体験活動や調べ学習、体力づくり、遊びなど、やりたいことやできること、そのための計画や準備等について子供たち一人一人が意欲的に考え（低学年の子供たちは、保護者の方と一緒に話し合ってみてください）、これでいいかな、次どうすればいいだろうと試行錯誤しながら挑戦を続けていくなど、子供たち自身でわくわくする楽しい夏休みにしていくことを期待しています。その際は、保護者の方からの称賛やさらなる主体性につながる問いかけなど、是非よろしくをお願いします。





た か く ま

【創立144周年】 伊佐市立牛尾小学校 児童数22名
学校だより 令和8年度 6月号



人権について改めて考えました

牛尾小では、学校訓「仲よく」「かしこく」「たくましく」の1つ、「仲よく」での具体的な取組の中に「人権を尊重した、学び合い高め合う授業・学級経営」を掲げています。人権教育は、全ての教育の根底にあるものとして、牛尾小の職員一同、人権を常に意識した教育を行っています。

人権とは何か。改めて振り返ってみますと、

- すべての人が生まれながらにして持っている権利
- 人間が人間らしく生きていくための、誰からも侵されない基本的な権利
- 個人として尊重され、安全で安心して生活を送るために欠くことのできない権利
- 政治に参加して自らの人権を守るための権利
- 基本的人権の尊重は、日本国憲法の基本理念の一つとしてすべての国民に保障されたもの



これらは、日本国憲法の理念を基にした「鹿児島県人権教育・啓発基本計画」に基本的な考え方として掲載されているものです。

人権を考えるうえで考え続けていかなければならないこと、それは人権課題についてです。具体的には、女性や子供、高齢者、障害者、部落差別、外国人、ハンセン病元患者・感染症患者、性的指向・性自認、アイヌの人々などに対する差別問題です。また、身体的な特徴に対する差別というものも見られます。これらの差別は、マイノリティ（少数派）の立場の人々が受けてしまいがちでもあります。

差別心の根底にあるもの、それは、自分とは違う見た目や立場、考えを受け入れることができず、避けようとしたり自分より下の立場として見てしまったり、嘲笑したりしてしまうことです。自分は差別なんかしない、という人でも、無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）により、差別的な言動をしている場合があるかもしれません。

もし、違いをその人の個性として認め、いろいろな人がいて当たり前、一人一人を人間として尊重しようという意識で人と接することができれば、そこに差別的な感情は生まれてきません。そして、全ての人の心理的安全性が確保され、全ての人が幸せな気持ちで暮らすことができることでしょう。「みんな違ってみんないい」ですね。

6月最初の週は「校内人権週間」でした。これからも、子供たちに様々な場面で人権について考えさせていきたいと思っています。



た か く ま

【創立144周年】 伊佐市立牛尾小学校 児童数22名
学校だより 令和8年度 5月号



赴任後1か月が経って

私が牛尾小に赴任して1か月以上が経ちました。毎日、子供たちに会えると、子供たちが元気よくあいさつをしてくれます。私も、子供たちに負けじと、大きな声であいさつを返します。こうして、1日の始まりをさわやかな気持ちで迎えることができ、毎日うれしい気持ちになります。

今日も「牛尾っ子パトロール隊」の方々に見守られ、「牛尾っ子見守り隊」の方々に一緒に付き添っていただきながら、安全に安心して登校できている子供たちですが、見守り隊の方々にあいさつについても御指導いただいています。遠くに見える私に、遠いところから大きな声で、「おはようございます。」門の前まで来たら、見守り隊の方々に、「ありがとうございました。」その後は、見守り隊の方々の笑顔に見送られ、子供たちは校庭に入っていきます。牛尾っ子のあいさつがしっかりしているのは、このように地域の方々にもあいさつをきちんと教えていただいているからなのだと思います。地域ぐるみで子供たちを育てていただいていることにとても感謝しています。ありがとうございます。

授業が始まると、子供たちは、各教室での学習にとっても意欲的に取り組んでいます。きちんとした態度で先生の話聞き、手を挙げて積極的に発表したり、課題解決に向けて一生懸命考えたり調べたりするなど、学習への心構え、態度がしっかりとできています。誰一人、ぼーっとしたり全く違うことをしたりしている子供はいません。

先日、職員室に用事のある子供が、「〇年の〇〇です。～の鍵を返しに来ました。入ってもいいですか。」「失礼しました。」と当たり前のようにきちんとした言葉で伝えることができていました。もちろん、近くに担任の先生はいませんでしたが、その子は自分の言葉としてしっかりと伝えることができていました。当たり前のことが当たり前に行っている姿を見て、とても感心することでした。このような子供たちの姿を見ることができるのは、子供たちのよりよい成長のために日頃から指導、支援を一生懸命頑張っている先生方、そして毎日、家庭で子供たちをしっかりと支えていただいている保護者の皆様のおかげです。ありがとうございます。

これからも、牛尾っ子の頑張る姿やきちんとした行動にたくさん出会い、さらに元気をもらいたいと思います。



た か く ま

【創立144周年】 伊佐市立牛尾小学校 児童数22名
学校だより 令和8年度 4月号



新学期を迎えて

今年度、牛尾小学校に赴任してまいりました、「吉留卓朗」と申します。自然に囲まれ、子供たちにとって豊かな心を育むことのできるこの牛尾小学校で、子供たちや先生方、そして地域の方々と共に過ごしていくことをとても楽しみにしていました。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、いよいよ令和8年度がスタートしました。始業式、入学式で待ちに待った子供たちと出会い。子供たちの表情から、緊張した中にも新学期を迎えた喜び、そして頑張るぞ、というやる気のようなものがうかがえました。私はこれまで、たくさんの子供たちと出会い、その度に子供たちと出会えた喜びを感じてきました。今年度は、校長という立場ではありますが、これまでと変わることはない思いを胸に抱きながら、今年度も子供たちとの出会いを大切に頑張っていきたいと思います。

新年度が始まり、最初に子供たちに伝えたことは「あいさつ」についてです。

あいさつは、人と人との心の扉を開く鍵とよく言われます。「おはようございます。」「ありがとうございます。」など、相手の目を見て、元気よく、そして気持ちよくあいさつができると、相手もうれしい気持ちになり、相手との心の距離が縮まって親しみを感じ、お互いに心理的安全性を保つことができます。そのような雰囲気が生まれてくると、学習や運動、普段の生活でも楽しく活動でき、これまで以上に頑張ることもできます。一方、あいさつをしないまま一緒に過ごそうとすると、心理的安全性が保てず、関係がぎくしゃくし、仲良く、楽しく過ごすことができません。また、あいさつの仕方によっては、心の距離が縮まるどころか、逆に遠くなってしまうことがあります。例えば、そっけないあいさつは、相手を嫌な気持ちにさせてしまいます。せっかくのあいさつが逆効果になってしまうのは、とても残念なことですね。

あいさつを通して、素直で元気な子供たちがこれからも心身共にすくすくと成長していくためには、学校だけではなく、家庭や地域の方々の協力が欠かせません。もし、普段あまり意識していなかったときには、再度考えてもらえるとありがたいです。そして、牛尾小学校、牛尾校区が、これまで以上にあいさつという心のつながりであふれる場になっていくことを願っています。

